

実務経験のある教員等の授業科目の一覧表

看護学部看護学科

| 授業科目名 | 担当者 | 単位数 | 実務経験 |
|----------|---|-----|--|
| 看護過程論 | 山田 秀樹 佐藤 智子 鈴木 浩美 佐藤 直子 岡田 信子 | 1 | <p>山田:看護師として7年2ヶ月の実務経験。財団法人船員保険会東京船員保険病院(現独立行政法人地域医療機能推進機構東京高輪病院)にて、集中治療室(ICU・CCU)、整形外科病棟・内科病棟。旅客船舶看護師として、近海郵船株式会社ブルーゼファー号乗船勤務。</p> <p>小寺:看護師として9年5ヶ月の実務経験。東海大学医学部付属病院にて、小児科病棟でのスタッフ業務、看護部の主任、副師長、師長として院内教育、業務管理全般などを担当。</p> <p>佐藤(智):看護師として5年の実務経験。東京大学医学部附属病院にて、神経内科病棟看護師。訪問看護振興財団にて、研究員として在宅ケアの社会資源整備に関する調査研究に従事。</p> <p>鈴木:看護師として6年3ヶ月の実務経験。国立西埼玉中央病院にて内分泌内科・眼科・耳鼻科・泌尿器科混合病棟の看護師として勤務。</p> <p>佐藤(直):看護師として20年6ヶ月の実務経験。日本赤十字社医療センター、消化器外科、救急外来、特別個室病棟を経て、緩和ケア病棟 脳外科病棟、ICU 看護師長を歴任。</p> <p>岡田:看護師として8年の実務経験。東京女子医大消化器病センターICUにて5年、国立行政病院機構東京病院外来処置室にて1年、東京衛生病院救急外来内視鏡室にて2年</p> <p>それぞれの実務経験から、看護課程の展開における実践的な論理の構築と指導に結び付けている。</p> |
| 母性看護支援論 | 大賀 明子 長坂 桂子 柏木 由美 | 2 | <p>大賀:助産師として9年2ヶ月の実務経験。神奈川県立母子保健センターにて、産科病棟、谷津保健病院にて、外科病棟 小児科・産婦人科病棟で分娩、新生児室などを担当。</p> <p>長坂:助産師として20年の実務経験。そのうち母性看護専門看護師として実務を13年。恩賜財団母子愛育会愛育病院にて、産婦人科病棟・分娩室勤務。 NTT東日本関東病院にて、看護部・産婦人科病棟・産婦人科外来勤務。</p> <p>柏木:助産師として、虎の門病院にて2年、蒲田保健センターにて2年の経験を有する。また、糞谷保育園に看護師として2年、開業助産師として母乳育児支援開業助産の助産のサポートを12年経験している。</p> <p>それぞれの実務経験から、母性看護学の実務を理論的かつ実技を通じた指導に結び付けている。</p> |
| 小児看護支援論Ⅰ | 茂手木 明美 井上 寛隆 坂田 徳生 | 1 | <p>茂手木:看護師として4年の実務経験。千葉県こども病院にて外科系病棟看護師、社会福祉法人南西保育会南西保育園にて保育看護業務、有料老人ホームヴィウ武田の杜にて入所者健康管理・看護業務。</p> <p>井上:看護師として3年の実務経験。杏林大学医学部付属病院 高度救命救急センターにて小児科・小児外科病棟看護師。</p> <p>坂田:看護師として13年の実務経験。牧田総合病院にて外科・脳神経外科混合病棟勤務。その後、北里大学病院にて乳幼児急性期病棟、東海大学医学部付属病院・大磯病院にて小児病棟、小児科・脳神経外科混合病棟・ICUに勤務。</p> <p>それぞれの実務経験から、小児看護学の実務を理論的かつ実技を通じた指導に結び付けている。</p> |
| 成人看護支援論Ⅱ | 高橋 幸子 大工原 慈仁 関根 みぎわ 藤本 千尋 | 2 | <p>高橋:看護師として、12年の実務経験。千葉大学医学部附属病院にて、肺外科、ICU(救急外来・無菌室含)、手術室を歴任。</p> <p>大工原:看護師として9年の実務経験。独立行政法人国立病院機構東京病院にてICU・内視鏡室・呼吸器内科にて看護師として勤務</p> <p>関根:看護師として6年10ヶ月の実務経験。埼玉医科大学病院にて心臓血管外科病棟、埼玉医科大学国際医療センターにて包括的がんセンター 頭頸部腫瘍科・脳脊髄腫瘍科病棟、包括的がんセンター外来、救命救急センターICUを担当。訪問看護ステーショントータルケア小手指にて訪問看護を担当。</p> <p>藤本:看護師19年6ヶ月の実務経験。日本医科大学付属病院にて、脳神経外科病棟2年勤務、のち高度救命救急センター3年勤務。その後、日本赤十字社医療センタにて血液内科病棟2年6か月、手術室2年3か月勤務の看護師経験を有する。</p> <p>それぞれの実務経験から、成人看護学の実務を理論的かつ実技を通じた指導に結び付けている。</p> |

実務経験のある教員等の授業科目の一覧表

看護学部看護学科

| 授業科目名 | 担当者 | 単位数 | 実務経験 |
|------------|----------------------------------|-----|--|
| 老年看護支援論Ⅰ | 奥山 陽子 中澤 美弥 | 1 | <p>奥山:看護師とし宮島病院にて整形外科・手術室を3年を経て、SOS International LTD, Singaporeにて患者の救急搬送(セスナ機)2年間勤務。その後は、聖母病院訪問看護ステーションで3年勤務。</p> <p>中澤:看護師として25年9ヶ月の実務経験。立川中央病院にて消化器内科・消化器外科、杏林大学病院にてICU、新生児集中治療看護、菅野薫眼科にて眼科外来、村上病院にて在宅看護課、訪問看護、大宮訪問看護ステーションにて、訪問看護、特別養護老人ホーム杏樹苑にて高齢者看護、埼玉心会病院にて整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、眼科、消化器外科、脳外科、内分泌内科、化学療法などを担当</p> <p>それぞれの実務経験から、老年看護学の実際を理論的かつ実技を通じた指導に結び付けている。</p> |
| 在宅看護支援論 | 小松 妙子 齊藤 美恵 | 2 | <p>小松:看護師として3年の実務経験。千葉県がんセンターの頭頸科で3年間勤務。また、保健師として15年6か月の実務経験。東京都小平市役所健康課にて15年6月勤務。</p> <p>齊藤:看護師として17年の実務経験。聖路加国際病院にて緩和ケア病棟の看護師として勤務。</p> <p>それぞれの実務経験から、在宅看護学の実際を理論的かつ実技を通じた指導に結び付けている。</p> |
| 精神看護支援論 | 石川 幸代 原田 瞳 笠井 翔太 | 2 | <p>石川:看護師として6年の実務経験。医療法人研成会鈴木病院にて精神科閉鎖病棟にて看護師、精神医学研究所附属東京武蔵野病院にて精神科リハビリテーション病棟の副看護師長として勤務。</p> <p>原田:看護師として11年9ヶ月の実務経験。精神医学研究所附属東京武蔵野病院にて亜急性期開放病棟・閉鎖病棟看護師、老人性認知症病棟・亜急性期閉鎖病棟副看護師長、井の頭通りこどもん科胃腸科外来・病棟・手術室にて看護師、石倉整形外科にて外来・デイサービス看護師として勤務。</p> <p>笠井:看護師として4年の実務経験。千葉大学医学部附属病院にて精神科病棟での勤務。</p> <p>それぞれの実務経験から、精神看護学の実際を理論的かつ実技を通じた指導に結び付けている。</p> |
| 公衆衛生看護活動論Ⅰ | 神庭 純子 尾崎 美恵子 伊藤 千春 霜山 薫 | 2 | <p>神庭:保健師として3年の実務経験。川口市保健センターにて、成人保健係に所属し、慢性疾患及び精神疾患、介護予防に関する業務を担当。</p> <p>尾崎:保健師として19年1ヶ月の実務経験。杉並区役所(保健所、保健センター)ならびに東京都府中市役所(高齢者、障害者福祉課、福祉相談室)にて、地域住民への健康維持・増進のための相談業務、関係者間のマネジメント業務を担当した。</p> <p>伊藤:看護師として5年6ヶ月、保健師として14年の実務経験。東京都立荏原病院にて産婦人科・外科病棟にて妊産婦、褥婦のケアと術前術後の管理、新生児のケアを担当。小平市役所健康福祉部健康課にて母子保健事業、成人保健事業、東芝ヒューマンアセットサービス株式会社にて生活習慣病予防事業、メンタルヘルス対策など従業員の健康管理を担当。</p> <p>霜山:保健師として7年3か月の実務経験。入間市役所で母子保健業務、上水内郡小川村で高齢者保健業務の行政保健師を経て、キヤノン電子株式会社および富士通フロンテック株式会社にて、社員の健康管理を担当する。</p> <p>それぞれの実務経験から、公衆衛生看護学の実際を理論的かつ実技を通じた指導に結び付けている。</p> |
| 合計 | | 13 | |

| 授業形態 | 開講学部 | 看護 | | 必修 | 1単位 | 演習 | |
|---|---|-----|----|--|-----|------|---|
| | 2年次 | 開講期 | 前期 | ディスカッション | 有 | 学外授業 | 無 |
| 授業科目 (英名) | 看護過程論 (Nursing Process: Nursing Practice Methodology) | | | | | | |
| 担当教員名 | ◎山田 秀樹・佐藤 智子・鈴木 浩美・佐藤 直子・岡田 信子 (◎は科目責任者) | | | | | | |
| <p>[授業の概要] あらゆる対象への看護を導く看護実践方法論として、対象の看護の必要性を認識し対象に必要な看護を系統的に計画し実施・評価する思考の筋道を理解して、その能力を修得する。本科目では、看護の本質への理解に立ち、看護学的な人間の見方・とらえ方の基本をおさえながら、看護過程を展開するために必要な専門的な頭の働かせ方について原理的に学んでいく。</p> <p>[科目の位置付け (全学年を通しての関連科目)] 1年次に学習した専門基礎科目と専門科目、特に、専門基礎科目の生活過程論や、支援基礎看護分野の看護学概論、ヘルスアセスメントⅠ、生活援助技術、看護実践基礎論、基礎看護実習でつかみ取ったことを意識的に使いながら、学びを発展させていきます。2年次に同時進行する、ヘルスアセスメントⅡ、療養援助技術の学びを連動させて統合しながら、その人のための看護を創り出す力を磨いていきましょう。</p> <p>[到達目標] 対象である人間を見つめ、その健康状態をとらえ、看護の必要性を構造的にとり出して、解決の方向性を導く、一連の思考のプロセスを原理的に理解し、看護実践方法論として意識的に適用できる能力の修得を目指す。 1) 看護について・看護の対象である人間についての原理的な理解をもとに、人間の健康状態をとらえる専門的視点をおさえる。 2) 看護の過程性をふまえて、看護過程と看護実践の構造を理解する。 3) 看護過程論の骨子をつかみ、対象の看護の必要性をとらえ実践を導くための方法論として頭の中に定着させる。 ①看護のための対象の見つけ方と対象特性のとらえ方 (看護のためのアセスメント) について学ぶ。 ②看護上の問題のとり出し方 (=看護の必要性のとらえ方) と解決の方向性の導き方について学ぶ。 ③系統的な計画・状況に応じた実施と評価について学ぶ。 4) 一連の思考過程を意識的に適用して事例を解き、対象への看護の必要性を明らかにしながら看護実践を導くことができる。</p> | | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | | | 授業外学修 (事前学修・事後学修) | | 担当者 | |
| 1 | 1) 科目の概要・看護過程論の学修の位置づけ 2) 看護が持つ性質・特徴、看護過程とは、看護過程論=看護実践方法論とは 3) 看護のための「頭を働かせる技術」と「体を使う技術」 4) 看護の過程性について ~看護の展開と看護過程の展開 | | | 事前学修：支援基礎看護分野の復習(30分) 事後学修：科目の位置づけと学修内容・方法を確認(30分) | | 山田 | |
| 2 | 1) 看護過程の形式面と内容面 2) 看護理論と看護過程、F. Nightingaleの「三重の関心」 3) 認識論と看護過程、アセスメントと看護過程 4) 方法論としての条件 ~看護に内在する一貫した視点で看護援助を導き出す~、 対象を原理的におさえる、個(体一心)・社会・自然界の7つの矛盾 | | | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習する(各30分) 以下に留意して各回の学びを進める 【事前学修のポイント】 ■看護学概論、ヘルスアセスメントⅠ、生活援助技術、基礎看護実習の中で感じてきた看護上の疑問や患者役としての思いなどについてふり返り、また、同時進行するヘルスアセスメントⅡ、療養援助技術でつかんだことを連動させながら、本科目の学修に意図的に用いられるよう、準備しておくこと。 【各回の課題や宿題への取り組み方】 ■各回授業の中で個人やグループの課題として取り組んだ方法論の理解や修得、学修の積み上げや仕上げのための事後課題、授業内で取り上げたテーマや次回につながる準備として示された宿題については、取り組まれたことを前提に進める(次回参加の必須条件)。 【事後学修のポイントと事後課題】 ■演習の個人・グループの成果物は、全授業回終了後に筆記試験相当の課題として提出する。授業時のグループワークや発表を通じた気づきから、各自で追加・修正を考えたことについては、必ず学修の成果として反映して整えておくこと。 | | 山田 | |
| 3 | 1) 意識的に使って実践し修得しよう ~「頭を働かせる技術」と修得レベル 2) 事例とは、事例を通じて学ぶ意義 3) 看護過程論の骨子：現実の情報化—問題の明確化—計画立案—実施—評価 4) 現実の情報化① 生活像・生活力(現象から対象の人生と生活をつかむ) 5) 事実—資料—情報 ~現象をどのように切り取るか 6) 専門的視点で看護するための資料を得る ~生活12項目 | | | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習する(各30分) | | 山田 | |
| 4 | 1) 現実の情報化② 全体像・アセスメント(情報をもとに対象を全人的に理解し、 対象の特性をとらえる) 2) 対象特性の理解(アセスメント)の構造、帰納法と演繹法 3) 看護アセスメント ~看護する上で必要な対象特性=持てる力をとらえる | | | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習する(各30分) | | 山田 | |

| | | | |
|----------------|---|--|-------------------|
| 5 | 1) 対象の個別な反応をもとに対象の立場に立って全体像をとらえ、対象がおかれている状況を感じ取り、看護する上での気がかりを確認する 2) 問題の明確化① 解決を要する問題の取り出し 3) 看護上の問題とは、看護の必要性の認識について 4) 対象の看護の必要性を浮かび上がらせる、看護上の問題を構造的にとらえる 5) 問題の明確化② 問題を構造化し、解決のあり方・援助の焦点をとらえる | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習する(各30分) | 山田 |
| 6 | 1) 計画立案 ～問題解決に向けた援助目標の設定と系統的な計画の具体化 2) 実施－評価 ～対象の状況に応じた実施、評価の視点 3) 演習事例配付、事例への取り組み方 | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習する(各30分) | 山田 |
| 7 | 事例展開演習1 現実の情報化①：生活像・生活力 *個人・グループワーク、発表 | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分) | 山田・佐藤・鈴木・岡田・横田・小寺 |
| 8 | 事例展開演習2 現実の情報化②：全体像 *個人・グループワーク | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分) | 山田・佐藤・鈴木・岡田・横田・小寺 |
| 9 | 事例展開演習3 現実の情報化②：全体像・アセスメント、立場の変換 *個人・グループワーク、発表 | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分) | 山田・佐藤・鈴木・岡田・横田・小寺 |
| 10 | 事例展開演習4 問題の明確化①：看護上の問題(解決を要する問題) *個人・グループワーク、発表 | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分) | 山田・佐藤・鈴木・岡田・横田・小寺 |
| 11 | 事例展開演習5 問題の明確化②：看護上の問題(問題の構造化と解決の方向性、援助の焦点) *個人・グループワーク、発表 | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分) | 山田・佐藤・鈴木・岡田・横田・小寺 |
| 12 | 事例展開演習6 計画立案(一実施－評価)：援助目標設定と計画立案 *個人・グループワーク、発表、発表準備 | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分) | 山田・佐藤・鈴木・岡田・横田・小寺 |
| 13 | 事例展開演習7 成果発表 *発表準備、発表 | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分) | 山田・佐藤・鈴木・岡田・横田・小寺 |
| 14 | 事例展開演習8 成果発表 *発表 | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分) | 山田・佐藤・鈴木・岡田・横田・小寺 |
| 15 | 事例展開演習9 成果発表 *発表 ふり返り、実習に向けた看護過程論修得のための学びのポイント | 事前学修：前回の内容を確認しておく(各30分) 事後学修：今回の内容を復習し事例展開の取り組みを進める(各30分) | 山田・佐藤・鈴木・岡田・横田・小寺 |
| 成績評価の方法と基準 | 個人課題・レポート70%、授業およびグループ学習への参加姿勢・成果発表30% 以上の関連をふまえて総合して学修を評価します。 | | |
| 履修上の留意点 | 本科目では、看護過程論について理解して事例に意識的に使う実践を通じながら、「頭を働かせる技術」として修得していきます。「頭の働かせ方」の理解と修得のために、自らが頭を意識的に働かせる個人ワークとグループワークを軸に双方向授業で展開していくので、自身の頭で参加して、他者の感じ方・考え方からも新たなことをつかみ取りながら学びを発展させていってください。 各回の課題や宿題は、自身の頭の中に学びを積み上げて、看護者としての気づきや理解が進んでいくために意図したものであるため、工夫して既修の学びとつながりを持たせたり、新たに抱いた疑問に向き合ったりして取り組んでください。看護援助実習では、看護過程論を「状況に応じて使う段階」で看護実践します。 | | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | 特に、3.4.2.の育みに関連します。 | | |
| 教科書 | 三瓶真貴子：新体系の看護理論 看護学矛盾論－unification－ 第2版、金芳堂、2012 他、必要時に資料配付します。 | | |
| 参考書・参考資料 | 1) 三瓶真貴子、山田秀樹：基礎看護学resume集－看護理論編一、ブイツーソリューション、2006 2) 薄井坦子：看護のための疾病論 ナースが視る病気、講談社、1994 3) 金川克子、天津栄子編：わかる・使える看護過程 基礎知識と実践展開へのアプローチ、中央法規、2002 他、随時紹介します。関連科目のテキスト・資料を活用しつつ、各自で必要な文献に当たります。 | | |
| 学生との連絡方法 | 開講期間を通して、担当教員が教室や研究室、授業支援システムにて担当科目に関する質問を受け付けます。 | | |
| 実務経験科目 | 実務経験科目に該当。詳細については、大学ホームページ等を確認してください。 | | |

| 授業形態 | 開講学部 | 看護 | | 必修 | 2単位 | 講義・演習 | |
|--|---|-----|----|--|-----|----------|---|
| | 3年次 | 開講期 | 前期 | ディスカッション | 有 | 学外授業 | 無 |
| 授業科目（英名） | 母性看護支援論（Maternity Nursing） | | | | | | |
| 担当教員名 | ◎大賀 明子・長坂 桂子・柏木 由美 (◎は科目責任者) | | | | | | |
| 〔授業の概要〕 妊娠・出産・子育てを女性のライフサイクルにおける成熟期の発達課題として理解し、周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児期）にある親子とその家族に対する支援について学びます。 | | | | | | | |
| 〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 母性看護学概論、母性看護学実習、病態治療学Ⅲ（小児、母性系）他 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 1. 妊娠・分娩・産褥・新生児の生理を理解します。 2. 妊娠・分娩・産褥・新生児期をよりよく過ごすための看護を理解します。 3. 親子やその家族のライフサイクルに合わせた、その人らしい妊娠・出産・子育てへむけた支援を考えます。 4. 知識を統合して、事例に必要な支援を導き出すプロセスを理解します。 5. 母性看護に必要な看護技術を学びます。 | | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | | | 授業外学修 (事前学修・事後学修) | | 担当者 | |
| 1 4月10日 3限 | 〔授業計画オリエンテーション・ガイダンス〕 〔妊娠期小テスト〕 〔演習 看護過程（妊娠期①）〕 | | | 事前学修(60分)：教科書を精読する。妊娠・出産に関する一般図書を読み、妊娠・出産についてのイメージをもつ。過去に出題された妊娠期の看護に関する国家試験問題に取り組む。 | | 大賀 長坂 柏木 | |
| 2 4月10日 4限 | 妊娠期の看護 1 身体的特徴（妊娠の生理・妊娠の成立・妊娠の生理・胎児の成長・母体の変化） | | | 事後学修(30分)：小テスト結果を振り返り、自分の学修課題を明確にする。不足していた知識を補う。授業内容を十分復習する。 | | 大賀 | |
| 3 4月12日 1限 | 妊娠期の看護 2 妊娠期の心理的特徴・社会的変化 | | | 事後学修(30分)：小テスト結果を振り返り、自分の学修課題を明確にする。不足していた知識を補う。授業内容を十分復習する。 | | 大賀 | |
| 4 4月12日 2限 | 妊娠期の看護 3 妊婦と胎児のアセスメントと看護① | | | 事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。 | | 大賀 | |
| 5 4月14日 1限 | 妊娠期の看護 4 妊婦と胎児のアセスメントと看護② | | | 事前学修(60分)：教科書を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。春期課題とあわせ、妊娠・出産に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 | | 大賀 | |
| 6 4月14日 2限 | 妊娠期の看護 5 妊婦と胎児のアセスメントと看護③ | | | 事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。 | | 大賀 | |
| 7 4月17日 1限 | ハイリスク妊娠・異常妊娠妊婦の看護 (妊娠期のマイナートラブルハイリスク妊娠、合併症妊娠、妊娠期の感染症、妊娠各期の異常と看護) | | | 事前学修(60分)：教科書を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。春期課題とあわせ、妊娠・出産に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 | | 大賀 | |
| 8 4月17日 2限 | 〔分娩期小テスト〕 〔演習 看護過程（分娩期・産褥早期）〕 | | | 事前学修(60分)：教科書を精読する。妊娠・出産に関する一般図書を読み、妊娠・出産についてのイメージをもつ。過去に出題された分娩期の看護に関する国家試験問題に取り組む。 | | 大賀 | |
| 9 4月19日 1限 | 分娩期の看護 1 (分娩期の用語の定義、分娩の三要素、分娩の機序、分娩の経過、産痛、分娩が母児におよぼす影響) | | | 事前学修(60分)：教科書を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。指定されたDVDを視聴する。春期課題とあわせ、分娩に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 事後学修(30分) 小テスト結果を振り返り、教科書、講義内容から不足していた知識を補う。授業内容を十分復習する。 | | 大賀 | |
| 10 4月19日 2限 | 分娩期の看護 2 (分娩期の特徴、産婦の心理的特徴) | | | 事後学修(60分)：授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。 | | 大賀 | |
| 11 4月21日 1限 | 分娩期の看護 3 (分娩各期の看護) | | | 事前学修(60分)：教科書を精読する。母性看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。指定されたDVDを視聴する。春期課題とあわせ、分娩に関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 | | 大賀 | |

| | | | | |
|----|-------------|--|--|----------|
| 12 | 4月21日 2限 | 分娩期の看護4 ハイリスク分娩・異常分娩・緊急帝王切開を受ける人の看護 | 事後学修(60分): 授業内容を十分復習する。興味や関心をもった箇所について文献を検索し調べてみる。産婦人科診療ガイドラインなどに目を通して見る。 | 大賀 |
| 13 | 4月24日 1限 | [演習 分娩期の対象に必要な看護技術] [演習 妊娠期の対象に必要な看護技術] | 事前学習(60分): 指定された演習ノートの課題に取り組む。関連するDVDや動画を視聴し、イメージをもって望む。技術の根拠とする知識について、十分復習してから授業に臨む。技術演習にふさわしい身なりを整える。 | 大賀 長坂 柏木 |
| 14 | 4月24日 2限 | [演習 看護過程 妊娠期②] 妊婦の看護アセスメント | 事後学修(60分): 授業内容を十分復習する。授業時間内で取り組みきれなかった部分について、納得できるまで取り組み、質問がある場合には自ら質問して解決できるようにする。必要な文献を検索し調べてみる。 | 大賀 長坂 柏木 |
| 15 | 4月26日 3限 | [産褥期 小テスト] [演習 看護過程 産褥期①] | 事前学修(60分): 教科書を精読する。妊娠・出産や育児に関する一般図書を読み、妊娠・出産・育児についてのイメージをもつ。過去に出題された産褥期の看護に関する国家試験問題に取り組む。 | 大賀 長坂 柏木 |
| 16 | 4月26日 4限 | 産褥期の看護 1 退行性変化を促す看護 | 事前学修(30分): 教科書を精読する 事後学修(30分): 小テスト結果を振り返り、教科書、講義内容から不足していた知識を補う。授業内容を十分復習する。 | 長坂 |
| 17 | 5月8日 1限 | 産褥期の看護 2 進行性変化を促す看護・母乳育児支援 | 事前学修(30分): 教科書を精読する。 事後学修(30分) 授業内容を復習する。 | 長坂 |
| 18 | 5月8日 2限 | 産褥期の看護 3 産褥期の心理社会的変化 | 事前学修(30分): 教科書を精読する。 事後学修(30分) 授業内容を復習する。 | 長坂 |
| 19 | 5月11日 3限 | 産褥期の看護 4 母子関係の形成・確立を支援する看護 親役割の獲得を支援する看護・家族の再構成を支援する看護 | 事前学修(30分): 教科書を精読する。 事後学修(30分) 授業内容を復習する。 | 長坂 |
| 20 | 5月11日 4限 | 産褥期の看護 5 産褥期の異常・生理的経過を逸脱した褥婦の看護 | 事前学修(30分): 教科書を精読する。 事後学修(30分) 授業内容を復習する。 | 長坂 |
| 21 | 5月15日 3限 | [新生児期小テスト] [演習 看護過程 新生児] [新生児期]小テスト [演習 看護過程 新生児①] | 事前学修(60分): 教科書を精読する。妊娠・出産や育児に関する一般図書を読み、妊娠・出産・育児についてのイメージをもつ。過去に出題された新生児の看護に関する国家試験問題に取り組む。 | 長坂 柏木 大賀 |
| 22 | 5月15日 4限 | [新生児の生理・看護 1] 母体外生活への適応と看護・新生児期の用語の定義、新生児の生理機能と観察・アセスメント | 事後学修(30分): 小テスト結果を振り返り、教科書、講義内容から不足していた知識を補う。授業内容を十分復習する。 | 柏木 |
| 23 | 5月22日 1限 | [新生児の看護 2] 新生児期の成育を支援する看護 新生児の生理機能と観察・アセスメント、新生児期の看護の特徴、新生児の看護目標と看護、家族への看護 | 事前学修(60分): 教科書を精読する。母性看護学概論・小児看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。指定されたDVDを視聴する。春期課題とあわせ、新生児・子育てに関する一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 | 柏木 |
| 24 | 5月22日 2限 | [演習 看護過程妊 新生児期②] 新生児の看護アセスメント | 事後学修(60分): 授業内容を十分復習する。授業時間内で取り組みきれなかった部分について、納得できるまで取り組み、質問がある場合には自ら質問して解決できるようにする。必要な文献を検索し調べてみる。 | 長坂 柏木 大賀 |
| 25 | 5月24日 1限 | [演習 新生児期の対象に必要な看護技術] | 事前学習(60分): 関連するDVDや動画を視聴し、イメージをもって望む。技術の根拠とする知識について、十分復習してから授業に臨む。技術演習にふさわしい身なりを整える。 | 長坂 柏木 大賀 |

| | | | | |
|----------------|-------------|--|--|----------|
| 26 | 5月24日 2限 | [演習 新生児期の対象に必要な看護技術] | 事後学修(60分): 授業内容を十分復習する。授業時間内で経験できなかった部分について、動画を活用するなどイメージ学習を行う。質問がある場合には自ら質問して解決できるようにする。実習前に練習すべき課題を明確にする。 | 長坂 柏木 大賀 |
| 27 | 5月26日 1限 | [演習 看護過程 産褥期②(褥婦と新生児の看護アセスメント1)] | 事前学修(60分): 関連するDVDや動画を視聴し、イメージをもって望む。技術の根拠とする知識について、十分復習してから授業に臨む。技術演習にふさわしい身なりを整える。 | 長坂 柏木 大賀 |
| 28 | 5月26日 2限 | [演習 産褥期の対象に必要な看護技術] | 事後学修(60分): 授業内容を十分復習する。授業時間内で経験できなかった部分について、動画を活用するなどイメージ学習を行う。質問がある場合には自ら質問して解決できるようにする。実習前に練習すべき課題を明確にする。 | 長坂 柏木 大賀 |
| 29 | 5月29日 3限 | [新生児の看護 3] 生理的経過を逸脱した新生児の看護・家族への看護 [ペリネイタルロス] ペリネイタルロスとは、ペリネイタルロスと看護 | 事前学修(60分): 教科書を精読する。母性看護学概論・小児看護学概論・病態治療学Ⅲについても復習しておく。指定されたDVDを視聴する。新生児・子育てや流産・早産・死産死産を経験したエッセイなどの一般図書を読み、学修内容の理解を深める。 | 柏木 |
| 30 | 5月29日 4限 | [演習 看護過程 産褥期③(褥婦と新生児の看護アセスメント2) [まとめ] | 事後学修(60分): 授業内容を十分復習する。授業時間内で取り組みきれなかった部分について、納得できるまで取り組み、質問がある場合には自ら質問して解決できるようにする。必要な文献を検索し調べてみる。 | 長坂 柏木 大賀 |
| 成績評価の方法と基準 | | | | |
| | | 定期試験60%、小テスト30%、課題の取り組み10%。 小テストは、看護師国家試験過去問題から出題します。 | | |
| 履修上の留意点 | | | | |
| | | 授業開始後20分以上の遅刻は欠席となります。遅刻(授業開始~20分未満)3回で1回の欠席扱いとします。 教科書は必ず持参してください。 母性看護学概論最終講で提示した課題に取り組んで出席してください。 第1回に、これまでの知識の確認と、妊娠期の看護に関する看護師国家試験過去問題を活用した小テストを実施します。母性看護に関連する必修問題、妊娠期の看護に関する問題を復習しておいてください。 | | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | |
| | | 本科目は、特にディプロマポリシーの4・3・8に関連します。専門職としての倫理的判断を持ち、自律性と協働の必要性を考えながら取り組んで下さい。根底にホスピタリティの基盤を忘れないことも重要です。 | | |
| 教科書 | | | | |
| | | 森恵美 他: 系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学各論・母性看護学 [2]、医学書院、2021 | | |
| 参考書・参考資料 | | | | |
| | | 医療情報科学研究所編: 病気がみえる vol.10産科、メディックメディア、2018 写真でわかる母性看護技術アドバンス: インターメディカ、2017 適宜紹介します。 | | |
| 学生との連絡方法 | | | | |
| | | 不在の時は、メールで受け付けます。 大賀明子 水(12:30~13:30)、(16:00~17:00) 長坂桂子 水(12:30~13:30)、(16:00~17:00) 柏木由美 水(12:30~13:30) オフィスアワーとして設定し相談を受け付けます。 メールアドレス 大賀明子 (aohga@bunri-c.ac.jp) 長坂桂子 (nagasaka@bunri-c.ac.jp) 柏木由美 (y-kashiwagi@bunri-c.ac.jp) | | |
| 実務経験科目 | | | | |
| | | 本科目は、実務経験のある教員が担当しています。 | | |

| 授業形態 | 開講学部 | 看護学部 | | 必修 | 1単位 | 演習 | |
|--|---|--|----|----------|--------------------|------|---|
| | 2年次 | 開講期 | 後期 | ディスカッション | 有 | 学外授業 | 無 |
| 授業科目（英名） | 小児看護支援論Ⅰ（Theory and Interventions in Pediatric NursingⅠ） | | | | | | |
| 担当教員名 | ◎茂手木 明美・井上 寛隆・坂田徳生 (◎は科目責任者) | | | | | | |
| 〔授業の概要〕 生涯発達論、病態治療学Ⅲ及び小児看護学概論における学修をふまえ、子どもと家族の健康レベルに応じた看護・支援について学んでいきます。また、子どもと家族の権利・尊厳と最善の利益を守りながら健やかな成長・発達を支援する小児看護の実際と役割について考えていきます。 | | | | | | | |
| 〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 専門科目に位置づく科目です。2年次の小児看護学概論、病態治療学Ⅲに関連しています。3年次の小児看護支援論Ⅱや小児看護学実習に深く関連している科目です。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 1.さまざまな健康レベルにある子どもと家族の特徴を理解できる。 2.さまざまな健康レベルにある子どもと家族の権利・尊厳と最善の利益を守るためのかわりについて考えることができる。 3.さまざまな健康レベルにある子どもと家族が、よりよい生活を送るために必要な看護・支援について考えることができる。 | | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 授業外学修 (事前学修・事後学修) | | | 担当者 | | |
| 1 | 【授業ガイダンス】科目概要・目標・授業予定・評価について 【小児看護学概論の振り返り】 健康レベルに応じた子どもと家族の看護 【小児に特徴的な症状の観察・看護】 | 事前学修（30分）：指定教科書1のp344～p412を精読する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。 | | | 茂手木 明美 | | |
| 2 | 【さまざまな健康レベルにある子どもと家族の看護①】 循環器疾患、血液疾患、悪性新生物をもつ子どもと家族の看護 | 事前学修（30分）：指定教科書2のp188～p220、p278～p295、p298～p329を精読する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。 | | | 井上 寛隆 | | |
| 3 | 【さまざまな健康レベルにある子どもと家族の看護②】 呼吸器疾患、免疫・アレルギー疾患、消化器疾患をもつ子どもと家族の看護 | 事前学修（30分）：指定教科書2のp104～p135、p174～p186、p224～p276を精読する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。 | | | 坂田 徳生 | | |
| 4 | 【小児における看護過程の基本①】 小児看護における看護過程の考え方と特徴 発達段階各期にあわせた看護の展開 | 事前学修（30分）：これまでの授業で配付したプリントを再確認する。 事後学修（30分）：授業内容を整理する。 | | | 茂手木 明美 | | |
| 5 | 【小児における看護過程の基本②-1】 子どもの観察・情報収集・整理のポイントと各項目の考え方 小児看護におけるアセスメントの考え方と方法 | 事前学修（30分）：前回の授業内容を再確認する。 事後学修（30分）：授業内容を整理する。 | | | 茂手木 明美 | | |
| 6 | 【小児看護技術】 小児病棟で起きやすい事故と安全対策・環境整備 | 事前学修（30分）：指定教科書2のp516～p519、3のp96～p103を精読する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。 | | | 坂田 徳生 | | |
| 7 | 【小児における看護過程の基本②-2】 子どもの観察・情報収集・整理のポイントと各項目の考え方 小児看護におけるアセスメントの考え方と方法 | 事前学修（30分）：5回の授業内容を再確認する。 事後学修（30分）：授業内容を整理する。 | | | 茂手木 明美 | | |
| 8 | 【小児看護技術演習】 子どもの身体計測、抱っこ、更衣、オムツ交換 | 事前学修（30分）：指定教科書1のp294～299、p454、3のp50～76を精読する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。 | | | 坂田 徳生、井上 寛隆、茂手木 明美 | | |
| 9 | 【小児看護技術演習】 子どもの身体計測、抱っこ、更衣、オムツ交換 | 事前学修（30分）：指定教科書1のp294～299、p454、3のp50～76を精読する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。 | | | 坂田 徳生、井上 寛隆、茂手木 明美 | | |
| 10 | 【小児における看護過程の実際①】 情報整理とアセスメントの実際 | 事前学修（各30分）：4・5・7回の授業内容を再確認する。 事後学修（各30分）：課題に取り組み、情報の整理とアセスメントを行う。 | | | 茂手木 明美 | | |
| 11 | 【小児における看護過程の実際①】 情報整理とアセスメントの実際 | 事前学修（各30分）：4・5・7回の授業内容を再確認する。 事後学修（各30分）：課題に取り組み、情報の整理とアセスメントを行う。 | | | 茂手木 明美 | | |
| 12 | 【検査・治療・処置を受ける子どもと家族の看護】 | 事前学修（30分）：指定教科書1のp416～p469を精読する。 事後学修（30分）：授業で配付したプリントを用いて復習する。 | | | 茂手木 明美 | | |

| | | | |
|---|--|--|--------|
| 13 | 【さまざまな健康レベルにある子どもと家族の看護③】 腎疾患、代謝性疾患、運動器疾患をもつ子どもと家族の看護 | 事前学修(30分)：指定教科書2のp66～p83、p332～371、p412～429を精読する。 事後学修(30分)：授業で配付したプリントを用いて復習する。 | 井上 寛隆 |
| 14 | 【手術を受ける子どもと家族の看護】 | 事前学修(30分)：指定教科書1のp256～p268を精読する。 事後学修(30分)：授業で配付したプリントを用いて復習する。 | 茂手木明美 |
| 15 | 【外来・在宅療養における子どもと家族の看護】 【まとめ】 小児看護支援論Ⅰのまとめと小児看護支援論Ⅱにむけて | 事前学修(30分)：指定教科書1のp223～p238を精読する。 事後学修(30分)：授業で配付したプリントを用いて復習する。 | 茂手木 明美 |
| 成績評価の方法と基準 定期試験(70%)、看護過程(15%)、看護技術演習レポート(15%)で、総合的に評価します。 | | | |
| 履修上の留意点 「小児看護学概論」の履修をしていることが望ましい。 「小児看護学実習」に繋がる科目です。各回、内容が異なります。そのため、体調管理に努め欠席をしないよう履修して下さい。(欠席1回につき、評価点より1点減点します。) 授業開始後20分以上の遅刻は欠席とし、遅刻(授業開始～20分未満)3回で1回の欠席扱いとします。 | | | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 本科目は、看護学部ディプロマポリシーの4・3・2・6と関連しています。 さまざまな健康レベルにある子どもと家族に必要な看護について、自主的かつ自律的に学修することが大切になります。さまざまな状況にある子どもと家族とのかかわりや倫理的判断に基づいた看護実践をとおして、その子らしさや子どもと家族の持っている力を見出すことが大切になります。看護専門職を目指すものとして、子どもと家族に謙虚かつ誠実な姿勢でかかわり、子どもと家族の最善の利益を守ることにつながるよう取り組んでください。 | | | |
| 教科書 1. 奈良間美保他(2022)「系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論(第14版)」(医学書院、東京) 2. 奈良間美保他(2022)「系統看護学講座 小児臨床看護各論(第14版)」(医学書院、東京) 3. 山元恵子(2021)「写真でわかる 小児看護技術アドバンス」(インターメディカ、東京) | | | |
| 参考書・参考資料 2023年度病態治療学Ⅲ、小児看護学概論の講義資料 その他は、適宜授業中に紹介します。 | | | |
| 学生との連絡方法 必要な連絡は、授業内で行います。 授業に関する質問等は、授業内もしくは情報システムで受け付けます。 | | | |
| 実務経験科目 本科目は、実務経験のある教員が担当しています。 | | | |

| 授業形態 | 開講学部 | 看護 | | 必修 | 2 | 演習 | |
|--|---|---|----|----------|--------------|------|---|
| | 2年次 | 開講期 | 後期 | ディスカッション | 有 | 学外授業 | 無 |
| 授業科目（英名） | 成人看護支援論Ⅱ（Adult Health Nursing Ⅱ） | | | | | | |
| 担当教員名 | ◎高橋 幸子・大工原 慈仁・関根 みぎわ・藤本 千尋 (◎は科目責任者) | | | | | | |
| <p>〔授業の概要〕 急性状態にあるさまざまな健康課題をもつ成人と家族を理解し、対象に必要な看護を展開するための理論、および技術を修得します。また、周手術期看護の実際、クリティカルな状況下にある成人の看護の実際、それらの看護の特徴と役割を学修します。周手術期にある成人の事例を通して、手術侵襲による生体反応の回復と合併症予防、生活の再構築のための看護展開の基礎を身につけます。</p> <p>〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 急性期・回復期にある成人への看護実践の基礎的知識、看護過程の展開方法、具体的支援方法について学修します。この科目の内容は、3年次、4年次の実習の前提となります。（特に、成人看護学概論、成人看護支援論Ⅰ・Ⅲ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、総合実習）</p> <p>〔到達目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期およびクリティカルな状況下にある成人と家族の特徴について説明できる。 2. 手術侵襲による生体の反応と術後合併症の発生メカニズムについて説明できる。 3. 手術を体験する人の術後合併症予防と回復の促進に向けた看護の方法が説明できる。 4. 周手術期にある成人模擬事例をもとに、臨床看護実践の基本的な展開方法が習得できる。 5. 術後第1病日を想定した場面において、術後の観察と回復促進および合併症予防のために必要な看護技術が習得できる。 6. 周手術期およびクリティカルな状況下にある人の回復の促進あるいは合併症予防のための看護について説明できる。 | | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 授業外学修 (事前学修・事後学修) | | | 担当者 | | |
| 1 | ガイダンス、急性期、周手術期の考え方 | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋 | | |
| 2 | 周手術期にある人の特徴、事例の確認 | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋 | | |
| 3 | 周手術期看護①：術前・術中 | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋 | | |
| 4 | 周手術期看護①：術前・術中 | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋 | | |
| 5 | 周手術期看護②：手術侵襲と生体反応、術後合併症 | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋 | | |
| 6 | 周手術期看護②：手術侵襲と生体反応、術後合併症 | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋 | | |
| 7 | 開腹術を受ける患者の看護① | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋 | | |
| 8 | 開腹術を受ける患者の看護② | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋 | | |
| 9 | 看護過程：情報の整理・アセスメント | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋・大工原・関根・藤本 | | |
| 10 | 看護過程：情報の整理・アセスメント | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋・大工原・関根・藤本 | | |
| 11 | 看護過程：情報の整理・アセスメント | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋・大工原・関根・藤本 | | |
| 12 | 看護過程：情報の整理・アセスメント | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋・大工原・関根・藤本 | | |
| 13 | 看護過程：関連図/全体像 | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋・大工原・関根・藤本 | | |
| 14 | 看護過程：関連図/全体像 | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋・大工原・関根・藤本 | | |
| 15 | 看護過程：看護上の問題の明確化、問題リスト | 事前学修（60分）：テキストの精読 事後学修（60分）：講義内容のまとめ | | | 高橋・大工原・関根・藤本 | | |

| | | | |
|----|------------------------------|---|--------------|
| 16 | 看護過程：看護上の問題の明確化、問題リスト | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 高橋・大工原・関根・藤本 |
| 17 | 看護過程：看護計画 | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 高橋・大工原・関根・藤本 |
| 18 | 看護過程：看護計画 | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 高橋・大工原・関根・藤本 |
| 19 | 手術を受けた患者の看護 演習：術後1日目の技術演習 | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 大工原・関根・藤本・高橋 |
| 20 | 手術を受けた患者の看護 演習：術後1日目の技術演習 | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 大工原・関根・藤本・高橋 |
| 21 | 看護過程 実施・評価 | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 高橋 |
| 22 | 看護過程 実施・評価 | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 高橋 |
| 23 | 開胸術・開心術を受ける患者の看① | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 大工原 |
| 24 | 開胸術・開心術を受ける患者の看護② | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 大工原 |
| 25 | 開頭術を受ける患者の看護① | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 藤本 |
| 26 | 開頭術を受ける患者の看護② | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 藤本 |
| 27 | 女性生殖器の手術を受ける患者の看護① | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 高橋 |
| 28 | 女性生殖器の手術を受ける患者の看護② | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 高橋 |
| 29 | 救急看護、集中治療を受ける患者の看護① | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 関根 |
| 30 | 救急看護、集中治療を受ける患者の看護② | 事前学修 (60分)：テキストの精読 事後学修 (60分)：講義内容のまとめ | 関根 |

成績評価の方法と基準 定期試験 (70%)、看護過程・レポート (30%) で総合的に評価します。

| | |
|---------|--|
| 履修上の留意点 | <p>1. 講義資料の整理 ・2年後期、3年次、4年次の学修内容の土台となる科目になりますので、授業中にはメモをとり、後で振り返って確認しやすいように講義資料を整理しながら進めましょう。 ・授業前後に小テストをする場合があります。出席カードの代わりに、評価の対象になります。</p> <p>2. 出席の取り扱い ・講義開始時間を過ぎた場合は、遅刻とします。出席表に着席時間と遅刻理由を書いて提出してください。交通機関の遅延などは、全講義終了後、取り扱いについて検討しますので、理由は詳しく書いてください。 ・30分以上の遅刻、早退、途中退出・不在は、欠席とします。 ・早退については、事情について、その場で教員に申し出て下さい。不在時間によっては、欠席の扱いとなります。</p> <p>3. 授業中の注意事項 ・授業中の私語や授業と関係のない作業は慎んでください。 他の学生の学修の妨げになると判断したときは、退出して頂きます (その場合は欠席となります)。 ・授業中のトイレなどの途中退出は、他の学生の学修の妨げになりますので、休憩時間を活用するようにして、緊急を要する場合以外は避けて下さい。</p> |
|---------|--|

ディプロマ・ポリシーとの関連 ディプロマポリシーの4・3・8と特に関連します。

| | |
|-----|--|
| 教科書 | 明石恵子編 経過別成人看護学②周手術期看護 メディカルフレンド社 2019 鎌倉やよい/深田 順子著 周手術期の臨床判断を磨く 手術侵襲と生体反応から導く看護 医学書院 2008. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2][3][5][6][7][8][9][11] 医学書院 2019. 坂井建雄/岡田隆夫著 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 2018 |
|-----|--|

参考書・参考資料 講義の中で随時紹介します。

| | |
|----------|---|
| 学生との連絡方法 | 研究室 高橋 幸子：金 (12:40~13:30) 大工原慈仁：金 (12:40~13:30) 関根みぎわ：金 (12:40~13:30) |
|----------|---|

| | |
|--------|-------------------------|
| | 藤本 千尋：金（12：40～13：30） |
| 実務経験科目 | 本科目は、実務経験のある教員が担当しています。 |

| 授業形態 | 開講学部 | 看護学部 | | 必修 | 1 | 演習 | | |
|---|------------------------------------|------|----|---|---|-------|---|-----------|
| | 2年次 | 開講期 | 後期 | ディスカッション | 無 | 学外授業 | 無 | |
| 授業科目 (英名) | 老年看護支援論 I | | | | | | | |
| 担当教員名 | ◎奥山 陽子・中澤 美弥 | | | | | | | (◎は科目責任者) |
| [授業の概要] 老年期を生きる人々が、その人らしく生きていく上で欠かせない日常生活行動の支援および治療に必要な支援について学修します。 | | | | | | | | |
| [科目の位置付け (全学年を通しての関連科目)] 老年看護学概論での学びをもとに、高齢者を支援するために必要な知識、技術を学びます。本科目での学びは、3年次の老年看護学実習 I・IIに直接に関わっていくものです。専門科目、専門基礎科目と関連があります。 | | | | | | | | |
| [到達目標] 1. 高齢者に必要な日常生活行動の支援について理解できる。 2. 治療が必要な高齢者の支援について理解できる。 3. 看護援助が必要な高齢者の看護過程の展開ができる。 | | | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | | | 授業外学修 (事前学修・事後学修) | | 担当者 | | |
| 1 | ガイダンス、健康障害をもつ老年期の対象理解と基本的対応 | | | 事前学修 (90分) : 看護学概論の復習、教科書の関連する頁を精読する。 事後学修 (90分) : 学習した内容をまとめる。 | | 奥山陽子 | | |
| 2 | 高齢者とのコミュニケーション | | | 事前学修 (90分) : 教科書第5章Fを精読 事後学修 (90分) : 教科書第5章F、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山陽子 | | |
| 3 | 高齢者の生活機能を整える看護①ヘルスアセスメント | | | 事前学修 (90分) : 教科書第4章A・Bを精読 事後学修 (90分) : 教科書第4章A・B、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山陽子 | | |
| 4 | 高齢者の生活機能を整える看護②生活の基本となる日常生活動作 | | | 事前学修 (90分) : 教科書第5章Aを精読 事後学修 (90分) : 教科書第5章A、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山陽子 | | |
| 5 | 高齢者の生活機能を整える看護③移動・歩行 (演習) | | | 事前学修 (90分) : 教科書第5章Aを精読 事後学修 (90分) : 教科書第5章A、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山・中澤 | | |
| 6 | 高齢者の生活機能を整える看護③移動・歩行 (演習) | | | 事前学修 (90分) : 教科書第5章Aを精読 事後学修 (90分) : 教科書第5章A、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山・中澤 | | |
| 7 | 高齢者の生活機能を整える看護④骨粗鬆症・転倒、骨折 | | | 事前学修 (90分) : 教科書第5章A、第6章Bを精読 事後学修 (90分) : 教科書第5章A、第6章B、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山陽子 | | |
| 8 | 高齢者の生活機能を整える看護⑤活動と休息 (生活リズム)、廃用症候群 | | | 事前学修 (90分) : 教科書第5章Eを精読 事後学修 (90分) : 教科書第5章E、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山陽子 | | |
| 9 | 高齢者の食生活への支援方法①食事・食生活、摂食・嚥下障害 | | | 事前学修 (90分) : 教科書第5章Bを精読 事後学修 (90分) : 教科書第5章B、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山陽子 | | |
| 10 | 症候のアセスメントと看護①脱水 | | | 事前学修 (90分) : 教科書第6章Aを精読 事後学修 (90分) : 教科書第6章A、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山陽子 | | |
| 11 | 高齢者の清潔への支援方法①清潔、掻痒 | | | 事前学修 (90分) : 教科書第5章D、第6章Aを精読 事後学修 (90分) : 教科書第5章D、第6章A、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山陽子 | | |
| 12 | 高齢者の清潔への支援方法②口腔ケア、義歯の取り扱いなど (演習) | | | 事前学修 (90分) : 教科書第5章Dを精読 事後学修 (90分) : 教科書第5章D、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山陽子 | | |
| 13 | 高齢者の排泄への支援方法① | | | 事前学修 (90分) : 教科書第5章Cを精読 事後学修 (90分) : 教科書第5章C、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山陽子 | | |
| 14 | 高齢者の排泄への支援方法②おむつ交換など (演習) | | | 事前学修 (90分) : 教科書第5章Cを精読 事後学修 (90分) : 教科書第5章C、授業により学んだ内容の復習 | | 奥山・中澤 | | |
| 15 | まとめ | | | 事前学修 (90分) : 本授業全体をとおして学んだ内容の振り返り 事後学修 (90分) : 授業により学んだ内容の復習 | | 奥山陽子 | | |

| | |
|----------------|--|
| 成績評価の方法と基準 | 定期試験（70%）、課題（30%）により総合的に評価します。 |
| 履修上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書・参考書・授業資料を活用し、授業計画に沿って事前・事後学習を行い、主体的に授業に臨むこと。 ・本科目は、老年看護学実習へとつながる科目でもあり、進級にも大きく影響しますので、その点を十分理解して学習してください。 ・授業開始後20分以降欠席となります。 |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | 本科目は、ディプロマポリシーの特に2・3・4に関連しています。 |
| 教科書 | 北川公子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学、医学書院、2022。 ゴードンの看護診断 |
| 参考書・参考資料 | 適宜紹介します。 |
| 学生との連絡方法 | 奥山陽子 月曜日 16:30～17:30 中澤美弥 月曜日 16:30～17:30 |
| 実務経験科目 | 本科目は、実務経験のある教員が担当しています。 |

| 授業形態 | 開講学部 | 看護 | | 必修 | 2単位 | 講義・演習 | |
|--|--|-----|----|---|-----|-------|---|
| | 3年次 | 開講期 | 前期 | ディスカッション | 無 | 学外授業 | 無 |
| 授業科目（英名） | 在宅看護支援論（Nursing Care of home Care Nursing） | | | | | | |
| 担当教員名 | ◎齊藤 美恵・小松 妙子 (◎は科目責任者) | | | | | | |
| 〔 授業の概要 〕 在宅療養者とその家族のニーズに合わせた在宅療養準備期～在宅療養終了期までの支援および、在宅という場の特徴に合わせた看護の実践について学修します。 | | | | | | | |
| 〔 科目の位置付け（全学年を通しての関連科目） 〕 在宅看護学概論、ヘルスアセスメントⅠ・Ⅱ、生活援助技術、療養援助技術、看護過程論 | | | | | | | |
| 〔 到達目標 〕 1. 退院支援・退院調整を経て在宅療養へと至る過程について理解できる。 2. 在宅療養者と家族への支援方法について理解できる。 3. 在宅療養者と家族に対する看護過程の展開方法について理解できる。 | | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | | | 授業外学修 (事前学修・事後学修) | | 担当者 | |
| 1 | 授業ガイダンス 在宅における看護実践の基本 | | | 事前学修(30分)：メディカ出版教科書pp.18-59の予習 事後学修(30分)：教科書該当ページおよび授業により学んだことについて復習 | | 齊藤 | |
| 2 | 事例の把握 | | | 事前学修(30分)：メディカ出版教科書pp.22-30の予習 事後学修(30分)：教科書該当ページおよび授業内容の復習 | | 齊藤 | |
| 3 | 情報の整理1（看護過程） | | | 事前学修(30分)：情報の整理 事後学修(30分)：情報の整理、分からない用語等を調べる | | 齊藤 | |
| 4 | 情報の整理2（看護過程） | | | 事前学修(30分)：情報の整理 事後学修(30分)：情報の整理、基礎情報の確認 | | 齊藤 | |
| 5 | アセスメント1（看護過程） | | | 事前学修(30分)：情報の整理、基礎情報の確認 事後学修(30分)：アセスメントを進める、基礎情報の確認 | | 齊藤 | |
| 6 | アセスメント2（看護過程） | | | 事前学修(30分)：アセスメントを進める、基礎情報の確認 事後学修(30分)：アセスメントを進める、基礎情報の確認 | | 齊藤 | |
| 7 | 呼吸を整える援助技術＜講義＞ | | | 事前学修(30分)：メディカ出版教科書pp.93-96、117-137の予習 事後学修(30分)：教科書該当ページおよび授業内容の復習 | | 齊藤 | |
| 8 | 呼吸を整える援助技術＜演習＞ | | | 事前学修(30分)：メディカ出版教科書pp.50-53、88-92の予習 事後学修(30分)：教科書該当ページおよび授業内容の復習 | | 齊藤 | |
| 9 | 安全な移動・移乗の援助技術＜講義・演習＞ | | | 事前学修(30分)：メディカ出版教科書pp.50-53、88-92の予習 事後学修(30分)：教科書該当ページおよび授業内容の復習 | | 齊藤 | |
| 10 | 安全な移動・移乗の援助技術＜講義・演習＞ | | | 事前学修(30分)：メディカ出版教科書pp.50-53、88-92の予習 事後学修(30分)：教科書該当ページおよび授業内容の復習 | | 齊藤 | |
| 11 | 食を整える援助技術＜講義・演習＞ | | | 事前学修(30分)：メディカ出版教科書pp70-77の予習 事後学修(30分)：教科書該当ページおよび授業内容の復習 | | 小松 | |
| 12 | 排泄の援助技術＜講義・演習＞ | | | 事前学修(30分)：メディカ出版教科書pp78-84の予習 事後学修(30分)：教科書該当ページおよび授業内容の復習 | | 小松 | |
| 13 | 清潔の援助技＜講義・演習＞ | | | 事前学修(30分)：メディカ出版教科書pp108-116の予習 事後学修(30分)：教科書該当ページおよび授業内容の復習 | | 小松 | |
| 14 | 薬物療法のための援助技術＜講義・演習＞ | | | 事前学修(30分)：メディカ出版教科書pp84-87の予習 事後学修(30分)：教科書該当ページおよび授業内容の復習 | | 小松 | |
| 15 | エンドオブライフケア | | | 事前学修(30分)：メディカ出版教科書pp60-64の予習 事後学修(30分)：教科書該当ページおよび授業内容の復習 | | 齊藤 | |
| 16 | 在宅における看護実践の基本2（中間まとめ） | | | 事前学修(30分)：第7-15回授業内容の復習 事後学修(30分)：授業内容の復習 | | 齊藤 | |

| | | | |
|----------------|------------------|--|-------|
| 17 | アセスメント5 (看護過程) | 事前学修 (30分) : 授業内容をもとにアセスメントを進める 事後学修 (30分) : 授業内容の復習、基礎情報の確認 | 齊藤・小松 |
| 18 | アセスメント6 (看護過程) | 事前学修 (30分) : アセスメントを進める、基礎情報の確認 事後学修 (30分) : 授業内容の復習、アセスメントの完成 | 齊藤・小松 |
| 19 | 健康状態の関連図1 (看護過程) | 事前学修 (30分) : アセスメントをもとに関連図を作成する 事後学修 (30分) : 授業内容の復習、関連図の修正 | 齊藤・小松 |
| 20 | 健康状態の関連図2 (看護過程) | 事前学修 (30分) : 関連図の作成 事後学修 (30分) : 関連図の完成 | 齊藤・小松 |
| 21 | 社会資源の連携図1 | 事前学修 (30分) : 社会資源連携図の作成、基礎情報の確認 事後学修 (30分) : 授業内容の復習、社会資源の連携図の完成 | 齊藤・小松 |
| 22 | 社会資源の連携図2 | 事前学修 (30分) : 社会資源連携図の作成、基礎情報の確認 事後学修 (30分) : 社会資源連携図の完成 | 齊藤・小松 |
| 23 | 看護計画立案1 | 事前学修 (30分) : 看護計画の作成 事後学修 (30分) : 看護計画の修正、基礎情報の確認 | 齊藤・小松 |
| 24 | 看護計画立案2 | 事前学修 (30分) : 看護計画の作成 事後学修 (30分) : 看護計画の修正、基礎情報の確認 | 齊藤・小松 |
| 25 | 看護計画立案3 | 事前学修 (30分) : 看護計画の作成 事後学修 (30分) : 看護計画の修正、基礎情報の確認 | 齊藤・小松 |
| 26 | 看護計画立案4 | 事前学修 (30分) : 看護計画の修正 事後学修 (30分) : 看護計画の完成、実施に向けた準備 | 齊藤・小松 |
| 27 | 実施1 | 事前学修 (30分) : 看護計画実施に向けた準備 事後学修 (30分) : 授業内容の復習 | 齊藤・小松 |
| 28 | 実施2 | 事前学修 (30分) : 看護計画実施に向けた準備 事後学修 (30分) : 実施した内容の振り返り | 齊藤・小松 |
| 29 | 評価と看護計画の修正 | 事前学修 (30分) : 看護計画実施内容の評価 事後学修 (30分) : 看護計画の修正 | 齊藤・小松 |
| 30 | まとめ | 事前学修 (30分) : 看護過程全般の見直し、授業全般の見直し 事後学修 (30分) : 看護過程の完成、在宅看護学実習に向けた授業資料の整理 | 齊藤・小松 |
| 成績評価の方法と基準 | | 課題レポート20%、看護過程30%、筆記試験40%、授業への参加度10% (フィードバックシート (コメント票)・ディスカッションや演習等への参加態度) これらをもとに総合的に評価します。 | |
| 履修上の留意点 | | 教科書・参考書・授業資料等を活用し授業計画に沿って事前・事後学修を必ず行ってください。レポートは指定日時までに提出されたものを評価対象とします。 | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | | 本科目は、ディプロマポリシーの特に4・5・6に関連します | |
| 教科書 | | 臺有桂・石田千絵・山下留理子編 (2022) . ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術. メディカ出版. 東京. | |
| 参考書・参考資料 | | 河原加代子 (2022) . 系統看護学講座 在宅看護論. 医学書院. 東京. | |
| 学生との連絡方法 | | オフィスアワー/授業時間以外の連絡はAAA等を使用することがあります 原則: 授業開講日 非常勤講師: 授業日の休憩時間と授業終了後30分以内 | |
| 実務経験科目 | | 本科目は、実務経験のある教員が担当しています。 | |

| 授業形態 | 開講学部 | 看護 | | 必修 | 2単位 | 演習 | |
|---|--|---|----|----------|----------|------|---|
| | 3年次 | 開講期 | 前期 | ディスカッション | 有 | 学外授業 | 無 |
| 授業科目（英名） | 精神看護支援論（Psychiatric Nursing） | | | | | | |
| 担当教員名 | ◎石川 幸代・原田 瞳・笠井 翔太 (◎は科目責任者) | | | | | | |
| <p>〔授業の概要〕 精神状態が、どのように日常生活に影響するのかを理解することを目的としています。精神の健康上の問題に直面している人とその家族に対し、看護を実践するための方法論と援助技術、また、精神症状や精神状態によって影響された健康や日常生活をアセスメントし、健康と生活の質を高める看護方法について学修する科目です。</p> <p>〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 精神保健、精神看護学概論での学びをもとに、精神看護における対象への支援の方法について理解を深め、精神看護学実習につながるものです。</p> <p>〔到達目標〕 1. 患者の視点に立ち、患者理解を深める。 2. 精神障がい者とのかかわりの基礎知識、セルフケア看護論、急性期および慢性期における精神看護の基礎、精神疾患とその看護について理解する。 3. 事例をとおして精神障害をもつ人に対する看護の実際を考える。 4. 各看護領域における身体疾患にかかわる患者・家族の心のケアや、医療スタッフのメンタルヘルスの重要性を検討し、リエゾン精神看護専門看護師らの機能等について学修する。 以上の4項目を目標とします。</p> | | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | 授業外学修 (事前学修・事後学修) | | | 担当者 | | |
| 第1回 | 精神看護支援論では何を学ぶのか 授業ガイダンス（授業概要・学習目標・評価・提出物について） 精神機能の障害と看護 | 事前学修（60分）：精神保健、精神看護学概論の復習をする。 事後学修（60分）：学習計画を立案する。 | | | 石川 | | |
| 第2回 | 統合失調症をもつ患者の看護 | 事前学修（30分）：教科書を精読する。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 石川 | | |
| 第3回 | 精神に障害をもつ患者の理解：DVD「ビューティフル・マインド」を視聴① | 事前学修（30分）：前回の授業の復習をする。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 石川 | | |
| 第4回 | 精神に障害をもつ患者の理解：DVD「ビューティフル・マインド」を視聴② | 事前学修（30分）：前回の授業の復習をする。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 石川 | | |
| 第5回 | 気分障害をもつ患者の看護 | 事前学修（30分）：教科書を精読する。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 原田 | | |
| 第6回 | パーソナリティ障害・強迫性障害をもつ患者の看護 | 事前学修（30分）：教科書を精読する。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 笠井 | | |
| 第7回 | 依存症患者の看護 | 事前学修（30分）：教科書を精読する。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 原田 | | |
| 第8回 | 断酒会またはAA（アルコール・アノニマス）当事者の体験 | 事前学修（30分）：前回の授業の復習をする。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 原田 | | |
| 第9回 | 薬物療法と看護 | 事前学修（30分）：教科書を精読する。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 笠井 | | |
| 第10回 | 精神科における各種療法と看護 | 事前学修（30分）：教科書を精読する。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 原田 | | |
| 第11回 | 認知行動療法と看護 | 事前学修（30分）：教科書を精読する。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 笠井 | | |
| 第12回 | 行動制限と看護、アドボカシー（人権擁護）について | 事前学修（30分）：教科書を精読する。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 原田 | | |
| 第13回 | 身体合併症と看護 | 事前学修（30分）：教科書を精読する。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 笠井 | | |
| 第14回 | 統合失調症の当事者の体験～発症・入院から地域生活まで～ | 事前学修（30分）：第2回の授業の復習をする。 事後学修（60分）：学習した内容をノートにまとめる。 | | | 笠井 | | |
| 第15回 | 精神に障害をもつ患者の看護過程 ・看護過程の事例の提示 事例における患者基本情報（発達段階を含む）を把握する。 | 事前学修（30分）：患者基本情報を記入する。 事後学修（60分）：グループワークによる示唆を踏まえ、患者基本情報を記入する。 | | | 石川・原田・笠井 | | |

| | | | |
|----------------|--|---|----------|
| 第16回 | 精神に障害をもつ患者の看護過程 ・事例における発達段階について理解する。 | 事前学修 (30分) : 発達段階について記入する。 事後学修 (60分) : グループワークによる示唆を踏まえ、発達段階を記入する。 | 石川・原田・笠井 |
| 第17回 | 精神に障害をもつ患者の看護過程 ・事例における薬物療法の実際 (使用目的・作用・有害作用) を理解し、事例における身体合併症をアセスメントする。 | 事前学修 (30分) : 薬物療法、身体合併症について記入する。 事後学修 (60分) : グループワークによる示唆を踏まえ、薬物療法、身体合併症を記入する。 | 石川・原田・笠井 |
| 第18回 | 精神に障害をもつ患者の看護過程 ・事例において、出現している精神症状について理解する。 | 事前学修 (30分) : 精神症状について記入する。 事後学修 (60分) : グループワークによる示唆を踏まえ、精神症状を記入する。 | 石川・原田・笠井 |
| 第19回 | 精神に障害をもつ患者の看護過程 ・発達段階、精神症状、治療等が事例のセルフケアにどのように影響しているかを理解する。 | 事前学修 (30分) : セルフケアのアセスメントを記入する。 事後学修 (60分) : グループワークによる示唆を踏まえ、セルフケアのアセスメントを記入する。 | 石川・原田・笠井 |
| 第20回 | 精神に障害をもつ患者の看護過程 ・発達段階、精神症状、治療等が事例のセルフケアにどのように影響しているかを理解する。 | 事前学修 (30分) : セルフケアのアセスメントを記入する。 事後学修 (60分) : グループワークによる示唆を踏まえ、セルフケアのアセスメントを記入する。 | 石川・原田・笠井 |
| 第21回 | 精神に障害をもつ患者の看護過程 発表 ・事例の全体像、長期・短期看護目標を考える。 | 事前学修 (30分) : 全体像、長期・短期看護目標を記入する。 事後学修 (60分) : グループワークによる示唆を踏まえ、全体像、長期・短期看護目標を記入する。 | 石川・原田・笠井 |
| 第22回 | 精神に障害をもつ患者の看護過程 発表 ・事例の短期看護目標をもとに援助の実際を考える。 | 事前学修 (30分) : 全体像、長期・短期看護目標を踏まえ、必要な援助を考える。 事後学修 (60分) : 援助を評価し、長期・短期看護目標を修正する。 | 石川・原田・笠井 |
| 第23回 | 精神看護における看護過程と再構成の意味について考える ・実際の事例を用いて再構成を行い、場面の振り返りを行う事で、患者理解、看護援助への活かし方を理解する。 | 事前学修 (30分) : 教科書を精読する。 事後学修 (60分) : 学習した内容をノートにまとめる。 | 石川・原田・笠井 |
| 第24回 | リエゾン精神看護とその実際 | 事前学修 (30分) : 教科書を精読する。 事後学修 (60分) : 学習した内容をノートにまとめる。 | 石川 |
| 第25回 | 精神障がい者の退院支援 (患者本人、家族、地域社会の視点からの理解) | 事前学修 (30分) : 教科書を精読する。 事後学修 (60分) : 学習した内容をノートにまとめる。 | 石川 |
| 第26回 | 精神障がい者を取り巻く地域精神保健医療資源、訪問活動、ソーシャルサポート、リハビリ、ストレングスモデル、AC について | 事前学修 (30分) : 教科書を精読する。 事後学修 (60分) : 学習した内容をノートにまとめる。 | 石川 |
| 第27回 | 精神看護学実習に向けて① ・事例を用いてロールプレイングを行い、精神看護学実習に向けての準備を行う。 | 事前学修 (30分) : 教科書を精読する。 事後学修 (60分) : 学習した内容をノートにまとめる。 | 石川・原田・笠井 |
| 第28回 | 精神看護学実習に向けて② ・事例を用いてロールプレイングを行い、精神看護学実習に向けての準備を行う。 | 事前学修 (30分) : 教科書を精読する。 事後学修 (60分) : 学習した内容をノートにまとめる。 | 石川・原田・笠井 |
| 第29回 | 司法精神看護 | 事前学修 (30分) : 教科書を精読する。 事後学修 (60分) : 学習した内容をノートにまとめる。 | 笠井 |
| 第30回 | 精神看護の課題と展望 | 事前学修 (30分) : これまでの授業を振り返る。 事後学修 (60分) : 学習した内容をノートにまとめる。 | 石川 |
| 成績評価の方法と基準 | 授業態度・出席状況 10%、授業レポート 30%、定期試験 60%とします。 | | |
| 履修上の留意点 | ・授業態度としては、自ら考え学ぶ姿勢を大切に自己責任の基に考え、行動するようにしてください。 ・授業には予習・復習をし、常に問題意識を持ち、自己の課題を明確にし、実習につなげていけるように授業参加することを期待しています。 | | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | 本科目は、看護学部のディプロマポリシーの 4, 5, 6 と関連しています。 | | |
| 教科書 | 1. 吉松和哉 小泉典章 川野雅資編：精神看護学Ⅰ精神保健学，ニューヴェルヒロカワ 2. 川野雅資監修：精神看護学Ⅱ精神臨床看護学，ニューヴェルヒロカワ | | |
| 参考書・参考資料 | 授業内で適宜紹介、配布します。 | | |
| 学生との連絡方法 | 石川幸代 オフィスアワー：水 (13:00 ~ 14:00) 原田 瞳 オフィスアワー：火 (11:00 ~ 12:00) 笠井翔太 オフィスアワー：火 (16:00 ~ 17:00) | | |
| 実務経験科目 | 本科目は、実務経験のある教員が担当しています。 | | |

| 授業形態 | 開講学部 | 看護 | | 必修 | 2単位 | 講義 | |
|---|--|-----|----|--|-----|------|---|
| | 2年次 | 開講期 | 後期 | ディスカッション | 有 | 学外授業 | 無 |
| 授業科目（英名） | 公衆衛生看護活動論Ⅰ（Public Health NursingⅠ） | | | | | | |
| 担当教員名 | ◎尾崎 美恵子・伊藤 千春・神庭 純子・霜山薫 (◎は科目責任者) | | | | | | |
| 〔授業の概要〕 地域における公衆衛生看護活動を展開するための知識と技術を学修します。 特に対象・健康課題に応じた活動方法や組織化活動の方法について学修します。 | | | | | | | |
| 〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 専門科目の健康支援看護分野に位置づく科目であり、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅱ・Ⅲ、公衆衛生看護活動展開論Ⅰ・Ⅱや支援基礎看護分野の家族看護論とも深く関連しています。 | | | | | | | |
| 〔到達目標〕 1. ライフステージ別の対象に対応した公衆衛生看護活動について理解する 2. ライフステージ別の対象に対応した公衆衛生看護活動方法について理解する 3. 生活集団の特性や健康課題に応じた公衆衛生看護活動について理解する | | | | | | | |
| 回 | 授業計画 | | | 授業外学修 (事前学修・事後学修) | | 担当者 | |
| 第1回 | 〔母子保健活動(1)〕 母子保健の概要について理解し、わが国の母子保健の動向と保健計画について理解する | | | 事前学修(90分)：教科書の目次を確認し、科目の概要を理解する。教科書P234-258を精読する。 事後学修(90分)：母子保健の概要、母子保健の動向と保健計画についてまとめる。 | | 尾崎 | |
| 第2回 | 〔母子保健活動(2)〕現在の母子保健施策の概要を知り、実際の保健指導、健康診査について理解する | | | 事前学修(90分)：教科書P234-258、配付資料を精読する。 事後学修(90分)：母子保健施策の概要、保健指導、健康診査等について整理する。 | | 尾崎 | |
| 第3回 | 〔母子保健活動(3)〕妊産婦の健康と保健指導、児童虐待、生涯を通じた女性の健康支援、リスクを持つ母子への支援について理解する | | | 事前学修(90分)：教科書P234-258、配付資料を精読する。 事後学修(90分)：妊産婦の健康と保健指導、女性の健康支援、リスクを持つ母子への支援について整理する。 | | 尾崎 | |
| 第4回 | 〔成人保健活動(1)〕成人保健の概要について理解し、わが国の成人保健施策の方向性と現状について理解する | | | 事前学修(90分)：教科書P259-273を精読する。 事後学修(90分)：配布資料等を活用して成人保健の概要、成人保健施策の方向性と現状等についてまとめる。 | | 伊藤 | |
| 第5回 | 〔成人保健活動(2)〕健康増進事業における成人保健活動の実際を知り、地域の成人期の対象者に対する保健師活動について理解する | | | 事前学修(90分)：教科書P266-283、配付資料を精読する。 事後学修(90分)：地域の成人期の対象者に対する健康増進事業における保健師活動についてまとめる。 | | 伊藤 | |
| 第6回 | 〔成人保健活動(3)〕成人期の主な生活習慣病と保健指導について理解し、実践につなぐ | | | 事前学修(90分)：教科書P266-283、配付資料を精読する。 事後学修(90分)：成人期の主な生活習慣病と保健指導について整理する。 | | 伊藤 | |
| 第7回 | 〔高齢者保健活動(1)〕高齢者保健の理念及び保健・福祉の変遷をふまえて高齢者保健の現状について学習する | | | 事前学修(90分)：教科書285-307を精読する。 事後学修(90分)：高齢者保健の理念、高齢者保健の現状についてまとめる。 | | 尾崎 | |
| 第8回 | 〔高齢者保健活動(2)〕高齢者の健康状態と生活特性をふまえて高齢者保健活動の実際について学習する | | | 事前学修(90分)：教科書285-307、配付資料を精読する。 事後学修(90分)：高齢者保健活動の実際についてまとめる。 | | 尾崎 | |
| 第9回 | 〔高齢者保健活動(3)〕高齢者の健康状態と生活特性をふまえて高齢者保健活動の実際について学習する | | | 事前学修(90分)：教科書285-307、配付資料を精読する。 事後学修(90分)：事例を通して学修したリスクを持つ高齢者及び家族への支援について整理する。 | | 尾崎 | |
| 第10回 | 〔在宅ケア〕在宅ケアの概念を学び、制度とシステムおよび保健師の役割と機能について理解する | | | 事前学修(90分)：教科書P486-500、P157-164を精読する。 事後学修(90分)：在宅ケアの制度とシステム、保健師の役割と機能について整理する。 | | 尾崎 | |
| 第11回 | 〔感染症保健活動(1)〕感染症保健活動の理念及び施策の変遷をふまえて地域保健活動及び保健師活動の概要について学習する | | | 事前学修(90分)：教科書P367-387を精読する。 事後学修(90分)：地域における感染症保健活動の概要について整理する。 | | 霜山 | |
| 第12回 | 〔感染症保健活動(2)〕主な感染症(HIV/AIDS、インフルエンザ、結核)と保健師活動の概要について学習する | | | 事前学修(90分)：教科書P387-405、配付資料を精読する。 事後学修(90分)：感染症(HIV/AIDS、インフルエンザ、結核)と保健師活動の概要について整理する。 | | 霜山 | |

| | | | |
|----------------|---|---|-------|
| 第13回 | [産業保健活動] 産業保健における健康問題、産業保健の活動体制を理解し保健師の役割と活動内容を学習する | 事前学修(90分):教科書P462-483を精読する。 事後学修(90分):産業保健における健康問題、産業保健の活動体制、保健師の役割と活動内容について整理する。 科目の振り返り・まとめをする。 | 伊藤 |
| 第14回 | [学校保健活動] 学校保健における主な健康問題と活動の体制及び養護教諭の業務内容の概要を学習する | 事前学修(90分):教科書p446-461を精読する。 事後学修(90分):学校保健の健康問題と活動の体制、養護教諭の業務内容の概要について整理する。 | 神庭 |
| 第15回 | [口腔保健活動] 歯科保健の理念、歯科保健対策の変遷とその現状をふまえて保健師活動の実際について学習する | 事前学修(90分):教科書P406-414を精読する。 事後学修(90分):歯科保健の理念、歯科保健対策の変遷と現状、保健師活動の実際について整理する。 | 尾崎・霜山 |
| 成績評価の方法と基準 | 発表やコメント票による授業理解度の確認10%、試験70%、レポート20% を基に総合的に評価します。 | | |
| 履修上の留意点 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書は必ず持参してください。私語は慎んでください。課題提出の際は期日を厳守してください。 ・遅刻は3回で1回の欠席とみなします。30分以上の遅刻は欠席として扱います。 交通遅延などの場合は授業終了後に相談に応じます。 | | |
| ディプロマ・ポリシーとの関連 | 本科目は、看護学部ディプロマポリシーの3, 4, 5と関連しています。 | | |
| 教科書 | 荒賀直子・後閑容子編(2021) 第5版データ更新版 公衆衛生看護学.jp」 インターメディカル, 東京. | | |
| 参考書・参考資料 | 厚生統計協会編「国民衛生の動向」 2022/2023 他、授業の中で適宜紹介します。 | | |
| 学生との連絡方法 | 尾崎 美恵子 水(12:30~13:30)、木(17:00~18:00)、伊藤 千春 水(12:30~13:30)、木(16:00~17:00)、神庭 純子 火(12:30~13:30)、木(16:00~17:00)、霜山 薫 火(12:30~13:30)、木(16:00~17:00)に設定しています。 また、授業終了後に教室にて質問を受け付けます。 | | |
| 実務経験科目 | 本科目は、実務経験のある教員が担当しています。 | | |